

巻頭特集

六兵衛陶苑・ろくろ師 山内砂川さん

ろくろと向き合い73年

神の手が器に

生命を吹き込む

瀬戸の赤津焼・六兵衛陶苑の山内砂川さんは88歳の現役ろくろ師。その手にかかれば、土は柔らかな生きもののように自由に動き、花瓶、急須、茶碗と姿を変ええる。技術と速さを兼ね備える、伝説のろくろ師の工房を訪ねた。



Profile  
六兵衛陶苑 ろくろ師 山内砂川  
14歳で六兵衛陶苑に入り、ろくろ師の道へ。昭和53年、国家検定手ろくろ成形作業において一級陶磁器技能士の合格第一号。平成17年、愛・地球博の会場に約50カ所設けられた水飲み場の水受けボウルの製作に携わる。平成20年、厚生労働大臣より「現代の名工」として表彰。平成22年、黄綬褒章受章



46センチの織部の大皿。砂川さんが素地を作り、27代目当主である加藤六兵衛さんのお母さんが絵付け、六兵衛さんが釉がけて制作



六兵衛陶苑では先祖代々伝わる織部を中心に、黄瀬戸や古瀬戸の和食器を制作



1.併設のギャラリーには工房を訪れた著名人の絵付け皿が並び、第48代横綱・大鵬の書も見られる  
2.砂川さん銘入の器  
3.秘蔵の鶴首花瓶。高さ65センチ、木箱に入れて大切に保管している

「正確な技術とスピードが何より大切」



上)何でも生み出す魔法の手。難しい注文にも応えてきた  
右)27代目当主・加藤六兵衛さんと。お互いに家族のような存在



上)柔らかな日差しが注ぐ工房。職人が分業で制作する 左)中庭に並び人気商品のめくみ鉢。砂川さんは半日程度でこの量を作り上げる

アサヒセット読者3名様に 六兵衛陶苑の陶器をプレゼント  
コンテンツページにある今月のコーチャン・ツパッキーをさがせ!のQRコードから応募してね♪

information

六兵衛陶苑

瀬戸市赤津町38  
☎0561-82-4585 9:00~12:00、13:00~17:00  
📅土日祝 📍3台

随時見学可能

休みの場合があるため、事前に要問い合わせ

六兵衛陶苑の陶器は工房併設の直売所のほか、以下でも購入できます

通販サイト 織部屋六兵衛 🌐https://www.rakuten.co.jp/oribeyarokube/

瀬戸蔵セラミックプラザ ☎0561-89-5758 瀬戸市蔵所町1番地の1 瀬戸蔵1階

品野陶磁器センター ☎0561-41-1141 瀬戸市品野町1-126-2

14歳で焼き物の世界へ 修業に耐えろくろ師へ

名鉄瀬戸線の終点、尾張瀬戸駅から車で10分ほどのところにある赤津地区。江戸時代、尾張徳川家の御用窯が置かれた地として知られ、今も多くの窯元が陶磁器業を営んでいる。

赤津焼の窯元の中でも古い歴史をもつ六兵衛陶苑は、神の手をもつと言われるろくろ師で有名だ。山内砂川さん88歳、ろくろの歴は73年。「今まで注文を断ったことがない。何でも作れるよ」。ろくろを回しながら柔らかな笑顔で話す。

「14歳で父が亡くなり、中学校を

た。およそ3分半。スッと真つすぐに伸びた首は気品があり、一方で見るものを圧倒させる迫力も備える。急須や茶碗もあつという間に完成。

次に見せてくれたのは削りの作業。成形した器を削り、形を整える。焼き上がりの縮みも計算しながら、手の感覚でサイズを測る。「器の底を指で軽くたたき、音で厚みを確かめる。耳もよく聞こえるし、目もいいよ。おかげで仕事が続けられる」と砂川さん。健康のために特別なことはしていない、好きなものを食べているそう。趣味の写真が、いい息抜きだという。

「職人は1個作っていくらの世界。正確な技術とスピードが何より大切」と説く。全国のろくろ師が集まる競技会では、砂川さんただ1人が午前中に課題を終わらせ1位を受賞し

辞めて工房に入った。仕事は厳しかったよ。朝7時から夜10時まで働いた後、夜中の12時、1時までろくろの稽古。土練機が開発される前は、冬でも足で土を踏んで練っていた。冷たくて辛かった。何度も辞めようと思ったよ。

努力で身に付けた神業 美しい鶴首花瓶

時は昭和半ば、瀬戸は陶磁器業の最盛期を迎え多忙を極めた。休みは月に2日だけ。ゆっくりと食事をする時間もない。「飯の遅いやつは仕事ができないうつだと言われた。私は昔から早飯で、それは今も変わらない」と、にっこり笑う。



おしゃべりをしながら、あつという間にこれだけの器が完成した

世代と時代を越えた 唯一無二のろくろ師

六兵衛陶苑27代目当主の加藤六兵衛さんは、砂川さんについてこう話す。「砂川さんは私の曾祖父の代にこの世界に入り、祖父、父とともに仕事をしてこられた。砂川さんの自宅と私の家は隣同士なので、小さい頃から知っており、まさに家族のような存在です」。六兵衛さんが知らない遠い親戚を、砂川さんが知っていることもあるそうだ。

「陶磁器業は、手作りで少ない数を作るか、型を使って大量に作るかのどちらか。ところが、砂川さんは手作りでたくさん数を作れる。まさに唯一無二のろくろ師です。いつまでもお元気で器を作り続けてもらいたい」と語ってくれた。